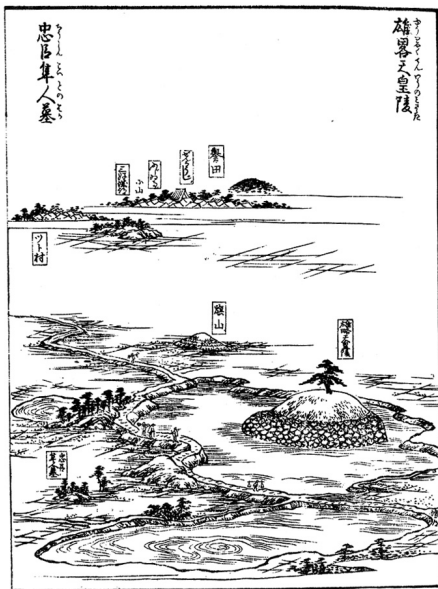


13.河内名所図会を訪ねて その七 雄略天皇陵

・迷子の天皇陵

私の家の窓から、毎日雄略天皇陵が見える。 拝所のある島泉平塚古墳のうっそうとした樹木は、大王級の貫禄を見せているのだ。 しかし、「河内名所図絵」（図絵）に描かれているのは、円墳のみで、雄略天皇陵と書かれています。 この円墳こそが、雄略陵であり、古市古墳群の中では、最大の円墳だ。 でも、当時の大王墳は、前方後円墳が常識なので、現在の仲哀天皇陵こそ、雄略天皇陵だともいわれています。 築造時代や大きさから、これくらい大きくないと不自然だと言われています。 ましてや、雄略天皇は、倭の五王の「武」であると考えられている。 そして、大王の後継争いを切り抜けて王位についた、実力ある大王だ。 だからこそ、美しい円墳ではあるが、あまりにも小さすぎと言われるのも頷ける。



・図絵に見える「旗山」と発掘調査

図絵を眺めると、手前に小さな隼人塚が見え、そこから善光寺の方向には、旗山と書かれた方墳らしきものが描かれている。 旗山は、現在の自動車学校の南に位置している様に見える。

その方向（おおむねだが）を見ると、現在遺跡調査が大々的に行われている。 かなり、熱心に調査中である。

土を掘り起こすユンボの音を聞きながら執筆していると、古代の溝から三体の人物埴輪を発見したというニュースが飛び込んで来た。 どこの古墳のものか不明というが、旗山と関係があるのだろうか？ 旗山は、現在の雄略陵の前方部になっている可能性が大きい。 それでは、図絵に描かれる以前に埋もれた古墳が別にあったのだろうか？ この地域には、他の小さな古墳が有っただろうと思われるそうです。 少なくとも、他の古墳が有ることが不思議ではない。 想像すると、期待感が広がってきます。 この、雄略天皇陵とされる美しい円墳の謎の解明に、少しでも役立ってくれる発掘となれば良いのですが。 古墳時代は、

苛立たしいほど諸説が飛び交っている。 だからこそ、古墳にはロマンがあり、面白いのだろう。

・偉大なる大王

雄略天皇は、ワカタケルと呼ばれていました。 日本史上、実在が証明されている最古の大王だと言われています。 有名な埼玉県の新井山古墳の鉄剣に、ワカタケルとあり、熊本県江田船山古墳からも、「治天下獲□□□鹵大王世・・・」と書かれた鉄刀が出土されています。 面白い事に、埼玉県から南九州までのヤマト王権の勢力を示す証拠です。 そして、最初の専制君主と言われています。 その偉大な大王の古墳は、どれなのだろうか？

(2020 年 9 月 林)